

川上君のこと一思い出すままに一

金沢犀川ワイズメンズクラブ 三谷 信三

60年近い交わりを回顧すると、多くのことが胸に迫ってきて筆が進まないのも、脈絡なく、思い出すまま書く事をお許し願いたい。

川上君とは1950年金沢泉丘高校2年、さらに3年と同じクラスで、クラブ活動も地歴部に所属していた。戦時中で小、中、高等学校在学中、修学旅行がなかったため彼と相談し、部の費用で奈良へ研修旅行を行なったところ、後輩たちからも喜ばれ、今でも同窓会として集まっている。高校卒業と同時に、川上君は北陸銀行に、私は安田火災に就職したことから、同じ金融界の友人としてもお付き合いしてきた。

川上君は1993年金沢犀川ワイズメンズクラブの設立に際し、一番に参加してくれたチャーターメンバーである。中部書記一期、クラブ会長三期、副会長二期、書記二期、会計三期を誠実に、正しく実行され、クラブにはなくてはならぬ人だった。

第三の職場は医院であり、その事務長を務められた。毎週ゴルフを楽しみ、夜はスナックへ。カラオケは、高校時代歌など聞いたことがなかったが、石原裕次郎の歌を持ち歌とし、メンバーと飲みに行ってもその歌った曲名を手帳に記載し、次の時に歌わせるなど、几帳面な男であった。

一昨年9月の検査の結果即入院となる。私は入院中の川上君の見舞いがてら、例会の前に意見を聞きに、例会後は報告に行った。

川上君は西日本区大会、中部部会や他クラブとの交流に進んで参加した。彼が一度クラブを辞めたいと言った時がある。西日本区の定款改正案が決定し、クラブ会則変更の際、「メンバーはYMCAの会員になるものとする」という文言で彼と何度も議論をしたが、国際ガイドライン303の「YMCAの会員となることが望まれる」を見つけて示したところ納得してくれた。こういう一面もある人だった。

このようにクラブにとって大切な人を失ったことは、金沢犀川クラブのみならずワイズダムにとっても大きな損失である。彼の意志を引き継ぎ二桁のメンバーになるよう更に頑張りたい。



(2006年6月8日 直前会長バッジの引継ぎ)



(2006年6月22日 6月第二例会 ワシントンホテル)